

#37

消防

消防の仕事は幅広い！



MC・リポーター
井本彩花



今回のゲストは東京消防庁の野尻ミドリさんです。野尻さんは就職してすぐに地域の消防署に配属され、そこで6年半、現場に駆け付ける仕事に携わりました。消防の仕事は役割分担に応じて専門性が高く、野尻さんも一つ一つ身に着けながら経験を積み、スキルを高めてきたそうです。今、野尻さんは本庁の広報課で働いています。消防の仕事は現場以外にもさまざまなものがあり、「自分の適性に合った職種を見つけられる」という野尻さんに、消防の仕事の大変さややりがいなどについて話を伺います。

消防の仕事とは

火災などの現場に駆け付けて消火や救急を行う人たちは、一般に「消防士」としてイメージされることが多いですが、正式には「消防吏員」と言い、地方自治体の消防本部や消防署で働く地方公務員です。また、直接現場に駆け付ける仕事以外にも、防災にかかわる研究や広報、教育活動、火災や事故の原因調査など、消防の仕事は多岐にわたります。

消防の仕事につくためには

各自治体を実施する消防士採用試験を受けます。合格したら、実際に働き始める前に、消防学校で半年間研修を受けます。



東京消防庁の野尻ミドリさんに聞きました!

井本: 「消防」ということは毎日火災の現場に駆け付けたりしているんですか?

野尻: 前に (所属して) いた東京都清瀬市にある消防署では、6年半くらいですかね、実際に現場に行って活動をするような仕事をしていました。今はちょっと職種が変わって広報課ですね、本部庁舎のほうで勤めているので、なかなか現場に行く機会はなく、また違った仕事をしている状況になります。

井本: 広報課に移られてどれくらい経つんですか?

野尻: 1年と3か月くらい今、経っていますかね。主にマスコミに対しての対応をしています。たとえば、火事のニュースで「東京消防庁によると……」っていう文言を聞いたりしたことがあると思うんですけど、そういった大元の発表文を作ったりするのをメインに仕事をしています。

井本: 実は私のおじいちゃんが、もと消防士さんだったんですよ。国際救助隊の隊長さんもやっていたんです。私の自慢のおじいちゃんなんです。

野尻: すごいです!

井本: ありがとうございます。

鍛えられた消防学校時代

井本: 野尻さんは子どものころから消防の仕事をしたかと思っていましたか?

野尻: 小さいころは、小学校6年生くらいまで美容師をやりたいっていうふうにずっと思っていて……なので、今とは全然違う夢ですね。でもそこから一転して、中学生に入ったくらいからいろいろ話を聞いていくうちに、「人の命を守るような仕事に就きたいな」と目指してずっと進んでいったっていう感じですね。

井本: 野尻さんは東京都のご出身なんですか?

野尻: 私は宮城県になります。

井本: なんで東京の消防庁を選んだんですか?

野尻: 最初は地元で働くかどうかって悩んだんですけど、大きな東京に出て働きたいなって……当時高校生だったっていうのもありますし。東京っていうところに夢があったんです。(笑) 当時は。

井本: それで東京に来て……。

野尻: 消防学校に入校します。

井本: その学校ではどんなことをやるんですか?

野尻: 半年後には消防署に配属になっちゃうので、基礎の部分をしっかり叩き込まれると思いますか。なので、火災対応の訓練と、あとは救急の現場に対応した訓練もやって、心臓マッサージと人工呼吸っていう、ひとつおりの流れですね。あとは、資機材の取扱い要領ですね。

井本：「資機材」って？

野尻：消防活動で使う道具です。機械だったりとか、はしごとか、エンジンカッターって分かりますかね、ドアを切るための大きなカッターみたいな機械があるんですけど……とか、あとは、火災がある部屋を見るうえで、とても暗い部屋ばかりなのでごく光の強い電気（ライト）を持って中に入るんですけど、そういったそういったものをひとまとめに「資機材」って私たちは言っています。消防用語みたいなものなのかなと思うんですけど、「道具」って言ったほうが分かりやすいですかね……。座学もあるので、教科書を見ながら学んだり、本当に学校みたいな感じで、それを半年間やります。

井本：その半年間の中で一番大変だったなあっていう授業はありますか？

野尻：やっぱり、火災対応の訓練がとても印象には残っています。重い装備を着て全力で動いて、それをやったときの衝撃っていうのは今でも覚えています。「これは大変だなあ」っていうので。

井本：装備ってどのくらいの重さなんですか？

野尻：10kgは普通に超えているので……ボンベを背負って15kgくらいあるんですかね。中腰、基本的にはしゃがんでの体勢なので。それで動き回って、後ろ向きで出てきて……とかやって。

井本：やっぱり体力がないと大変ですね。

野尻：体力は、そうですね……ただ、私も高校を卒業してすぐ、部活引退して数か月経った後に（消防学校に）入って、それまで何も運動していなくて……。訓練やっていくうちに徐々に慣れていったっていう感じですね。

井本：それで、卒業されてからは清瀬市の消防署に配属されたんですか？

野尻：そうですね。

忘れられない初めての現場

井本：そこではどんなお仕事をされていたんですか？

野尻：行った当初から私の希望でもあったんですけど、ポンプ車に乗って、基本的には火災の現場に行ったりとか、あとは救急の現場や交通事故の現場に行ったり……。

井本：ポンプ車っていうのはいわゆる消防車っていうことですか？

野尻：そうですね。赤い車。あとは、ちょっと聞き慣れないかもしれないんですけど、「指揮隊車」という隊の偉い人が乗っている車があって、大隊長というトップの隣で補助役みたいな感じで一緒について回る「伝令」という仕事もやらせてもらいました。私が異動する前は、一番の希望であったポンプ車の運転をして現場に向かっていたんです。

井本：出勤っていうのはどのくらいの頻度であったんですか？

野尻：今だと火災の件数っていうのはどんどん減ってきている状況で、ただ、救急の件数が増えてきていたりします。私がいたのが高齢者がとても多い地域で、ほとんど毎日あったかな、とは思いますがね。救急が多かったかな。

井本：そうなんですかね。忘れられない出来事とかはありましたか？

野尻：やっぱり、一番最初に出た現場で心臓マッサージをしたこと……実際に、「ああ私は今、人の命を救うためにやっているんだな」って思いながら、すごくシビアな現場ではあったので……すごく前の話なんですけど、そのときの現場をととても鮮明に覚えています。

井本：一番初めの現場ってやっぱり印象深いですね。

野尻：そうですね。

ポンプ車の運転は高ぶります

井本：運転のお仕事は何か特別な資格を取られたんですか？

野尻：私のやっていたポンプ車の運転手は、東京消防庁内の資格が必要になるポジションで、試験を受けて、実際に現場でポンプ車の水を出したりして働けるようになるための研修に「行ってもいいですよ」って選ばれて、研修を経て、資格をもらえる…という流れです。

井本：実際にサイレンを鳴らして運転をするときって、どういうお気持ちなんですか？

野尻：緊張はあります。

井本：やっぱりあるんですね！

野尻：緊張と、「これから行って活動するぞ」っていう、アドレナリンみたいな、やる気といいますか、強気な気持ち半面ですかね、いろいろ。高ぶってはいます。

落ち込んだときは話をして乗り切る！

井本：私はまだ実際に火事の現場を見たことはないんですけど、恐怖心とかはどういうふうにか克服していったんですか？

野尻：まだ、恐怖感ってものは私もありますし、たぶん完全に消えるものではないと思います。けど、やはりそこでも落ち着いて冷静になれるようになるためには、訓練をたくさんしていくしかないのかな。ここはたぶん考え方はいろいろあるんですけど、私の場合は訓練でイメージをつかんで、実際の現場も“訓練をやっている”っていう落ち着いた気持ち（で取り組む）。言ってしまうえば勝手に身体が動いていくようにしみ込ませるっていう、そのうえでも、とても訓練は大事なものかなと思います。

井本：落ち込むこととかもあるんですか？

野尻：ありますね。失敗をしたとき……ですね。訓練でもそうですし、現場でも。現場ってなると、人の命もかかっているっていう場面で、失敗もないように普段から訓練をして出てはいくんですけど……思ったようにできなかった、自分の理想どおりにできなかったっていう場面でも落ち込みますし……多々あります。

井本：それはどうやって乗り越えていくんですか？

野尻：私の場合は、とにかく自分で抱え込まない。「こういうことあったんですよー」っていうふうに、周りに言うっていうことで、そうですね、発散をしていったといいますか。私の場合は仲間内で話すという方法が一番合っていました。

井本：なるほど。先輩や上司からはどんな言葉が返ってきましたか？

野尻：私からしたらすごい先輩、上司なので、失敗とかしている様子もあまり見ないんですね。ですけど、いざ話してみると「自分も最初のころそれやったよ」とか「それよくやるよね」という言葉を（返してもらえた）。それで救われるっていうこともすごく多かったですし、みんな同じ失敗をしてここまで成長できているんだなっていうふうに思うと、「これを乗り越えられるようにがんばろう」というふうに思って……。その助けがすごく多かったですね。



東京消防庁のラジオ放送室にて

井本：消防のお仕事で大事なことで何だと思われますか？

野尻：まず一番に、「自分の安全はしっかりと守る」というところですかね。人を救う職業なので、危険な現場も多くて、無理もしがちな、無理して行きそうになる現場もあるんですけど、やっぱり「自分を守らないと人の命を救えない」という、大事な部分かなって思います。それと「ミスや失敗をしたことから学んでいく」、そういう気持ちがとても大事な意識だと思ってやっています。

井本：やりがいを感じたことは何ですか？

野尻：やっぱり実際に現場に行くと、家族の方からとても感謝をされる場面が結構あって、「ありがとうございます」とか。そういう言葉を受けたときにすごくやりがいを感じるな、と思います。感謝されるとうれしい気持ちがありますよね。

消防にもいろんな仕事があります！

井本：消防のお仕事に興味があるというリスナーの高校生に何かメッセージはありますか？

野尻：たぶん一番に不安に思うのが体力面だと思うんですけど、体力に関しては本当に、消防学校に入って訓練をやっていく中で培っていけるものなので、その心配は基本的にはないのかなと私は思っています。現場に行く仕事のほかにも本当にいろいろな職種があります。たとえば建築に関して詳しい人とかが有利になるような、火災調査っていう、実際に燃えた原因が何なのかっていう鑑識みたいな職業があつたりとかもします。（そのほか）119番の通報を受けて、私たちに「この住所で火事があったので出てください」、って伝える指令業務もあります。あとは、現場に出る仕事の中でも、化学に興味のある人は、そこに特化した隊もあります。自分の適性に合った職種を見つけられる、男性女性とかも関係なしに。ホームページとか調べていただくと詳細が出てきますので、興味を持ったらちょっと調べてもらいたいと思います。

夢は、はしご車の運転手

井本：では、野尻さんの夢を教えてください。

野尻：私の今の一番近い夢は、はしご車の運転手です。やっぱり運転の仕事を、やっていくうちにすごく好きになって、今後も続けていきたいなと思っています。

井本：はしご車とポンプ車の違いってあるんですか？

野尻：運転する車が、一番大きな違いです。あとは活動も（違います）。実際にはしご車の隊員って、（はしごを）のぼす必要がないって判断したときでも、何もしないわけじゃなくて、今度は隊員として一緒に支援の活動をしなければいけません。なので、活動をよく知っていて、車が大きくなる分、運転の技術もとても高い人が多いです。その部分ですごく理想だと感じるので、そこを目指して今勉強しています。

井本：がんばってください！ 最後に、野尻さんが仕事をしていて、好きな音ってありますか？

野尻：はい。消防署だと夕方の6時から6時半くらいの時間に一齐に点検をする時間があるんですけども、そのときに全部の車のサイレンを鳴らしたりとか、カンカン鳴らしたり、すごくいろんな音が一齐に鳴り響く時間があります。私はその音がすごく好きで、「今日も夕方までがんばったな」って、その時間でちょっと今日一日を振り返ります。



★あなたの身近に、消防隊員や救急隊員に助けられたことがある人はいますか？

.....
.....
.....

★落ち込んだ時、あなたはどんな方法で気持ちを切り替えていますか？

.....
.....
.....

★人々の安全を守る仕事には、消防以外に何があると思いますか？

また、地域の住民は、消防や防災のために何ができるでしょうか？

.....
.....
.....

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。